

作成日 2001年 4月17日
改訂日 2023年 4月 1日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	Hamatite SC-PU1
会社名	シーカ・ジャパン株式会社
住 所	東京都港区元赤坂 1-2-7 赤坂 K タワー 7F
担当部門	オペレーションズ&サプライチェーン Q-EHS
電話番号	0463-31-2772
F A X 番号	0463-31-2769
整理番号	1008-R12
推奨用途	建築用シーリング材ポリウレタン系 1 成分形
使用上の制限事項	上記の用途以外に使用しない

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類：

健康に対する有害性	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分 2 A
	皮膚感作性	区分 1
	発がん性	区分 1 B
	生殖毒性	区分 1 B

*記載がない危険有害性は、「区分に該当しない」または「分類できない」である。

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル：



注意喚起語：	危険
危険有害性情報：	H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ H319 強い眼刺激 H350 発がんのおそれ H360 生殖能または胎児への悪影響のおそれ

注意書き：	《安全対策》 P201 使用前に取扱説明書を入手すること。 P202 すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 P261 粉じん/ヒューム/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。 P264 取扱い後は手をよく洗うこと。 P272 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 P280 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。 P281 指定された個人用保護具を使用すること
-------	---

《応急措置》

- P302 + P352 皮膚についた場合：多量の水と石鹼で洗うこと。
- P305 + P351 + P338 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- P308 + P313 暴露または暴露の懸念がある場合：医師の診断/ 手当を受けること。
- P321 特別な処置が必要である。
- P333 + P313 皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断/ 手当を受けること。
- P337 + P313 眼の刺激が続く場合は、医師の診断/ 手当を受けること。
- P363 汚染した衣類は再使用する場合には洗濯すること。

《保管》

- P405 施錠して保管すること。

《廃棄》

- P501 内容物や容器を、国際/ 国/ 都道府県/ 市町村の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：混合物
 化学名：ポリウレタン系シーリング材

成分	含有量 (wt%)	化学特性 (化学式)	官報公示整理番号		CAS No.
			化審法	安衛法	
ウレタン ^o レボ ^o リマー	非公開	—	非公開	—	非公開
充填剤	非公開	非公開	非公開	—	非公開
可塑剤	非公開	非公開	非公開	—	非公開
高沸点炭化水素	非公開	—	非公開	—	非公開
カーボンブラック	1 未満	C	元素	—	1333-86-4

化学物質管理促進法

労働安全衛生法

カーボンブラック 対象外 第 57 条の 2 通知対象物
 政令番号 第 130 号

危険有害成分：カーボンブラック（労働安全衛生法 通知対象物）
 ※カーボンブラックは湿化品のため、危険有害性はほとんどないと考えますが、データが不足しているため、粉体での危険性に準じた扱いで評価しています。

4. 応急措置

- 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は、医師に連絡すること。
- 皮膚に付着した場合：付着物を拭き取り、多量の水と石鹼で洗うこと。皮膚刺激が生じた場合、医師の診断/ 手当を受けること。
- 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は、医師の診断/ 手当を受けること。

- 飲み込んだ場合 : 直ちに医師に連絡すること。口をすすぐこと。
最も重要な徴候及び症状 : 特になし
応急措置をする者の保護 : 汚染された衣類や保護具を取り除く。救助者が有害物質に触れないよう手袋を使用するなど注意する。
医師に対する特別注意事項 : 特になし

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 粉末、二酸化炭素、乾燥砂、泡。
使ってはならない消火剤 : 特になし
火災時の特有の危険有害性 : 特になし
特有の消火方法 : 付近の着火源を断ち、保護具を着用して消火する。
消火を行う者の保護 : 消火作業の際には有毒なガスを吸い込まないように呼吸用保護具を着用し、風上から消火作業を行う。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 暴露防止のため、保護具を着用して作業を行ない、蒸気の吸入や皮膚への接触を防止する。漏出した場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。付近の着火源を取り除き、消火機材を準備する。
環境に対する注意事項 : 本製品を含む廃水の公共用水域への排出又は地下浸透を防止するため、本製品がこぼれた床面などを水で洗い流してはならない。
封じ込め及び浄化の方法・機材 : 少量の場合は、土砂などに吸収させて蓋付きの空容器に回収する。火花を発生しない安全なシャベルなどを使用する。
多量の場合は、土砂などで流れを止め、液の表面を泡で覆った後に回収する。
二次災害の防止策 : 特になし

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
技術的対策 : 取扱いは、換気のよい場所で行う。
眼、皮膚への接触をさける。
保護手袋および保護眼鏡／保護面を着用すること。
取扱い後はよく手を洗うこと。
熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。
火気注意。
局所排気・全体換気 : 局所排気装置の設置、設備の密閉化又は全体換気を適正に行なうことが望ましい。
注意事項 : 特になし
安全取扱い注意事項 : 特になし
保管
適切な保管条件 : 換気の良い乾燥した冷暗所に密栓して保管すること。
熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。
施錠して保管すること。
火気注意。
安全な容器包装材料 : 溶剤により侵食されない材料を使用する。
その他、消防法、労働安全衛生法等の法令に定めるところに従う。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策 : 防災シャワー、手洗い、洗眼設備の設置

管理濃度 : 設定されていない

許容濃度

製品データ : データなし

成分データ :

日本産業衛生学会 (1998 年度版) : 吸入性粉塵 $1\text{mg}/\text{m}^3$ 総粉塵 $4\text{mg}/\text{m}^3$ (カーボンブラック)

ACGIH TLV (1998 年度版) : $3.5\text{mg}/\text{m}^3$ (カーボンブラック粉塵)

保護具

呼吸器用の保護具 : 有機ガス用防毒マスク

手の保護具 : ゴム手袋

目の保護具 : 側板付き普通眼鏡型又はゴーグル型保護眼鏡

皮膚及び身体の保護具 : 作業衣、安全靴

適切な衛生対策 : 作業中は飲食、喫煙をしない。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: ペースト状
色	: グレー、CV アイボリー
臭い	: 溶剤臭
沸点、初留点と沸点範囲	: データなし
可燃性	: データなし
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	: データなし
引火点	: データなし
自然発火温度 (発火点)	: 250°C 以上
分解温度	: データなし
pH	: データなし
動粘性率	: データなし
蒸気圧	: データなし
比重 (相対密度)	: $1.35 \sim 1.45$ (g/cm^3) 23°C
相対ガス密度	: データなし
粒子特性	: データなし

10. 安定性及び反応性

安定性	: 通常の条件下では安定。
化学的安定性	: 水と反応して硬化するが危険性はない。
危険有害反応可能性	: 特になし
避けるべき条件	: 高温高湿を避ける。
混蝕危険物質	: 酸、塩基、アミンと反応する。
危険有害な分解生成物	: データなし

11. 有害性情報

製品データ

急性毒性 (経口) : 既知の成分がすべて同一の分類区分のため、区分に該当しない

急性毒性 (経皮) : 既知の成分がすべて同一の分類区分のため、区分に該当しない

急性毒性 (吸入: 気体) : GHS 定義による気体ではない

急性毒性 (吸入: 蒸気) : 既知の成分がすべて同一の分類区分のため、区分に該当しない

- 急性毒性（吸入：粉塵、ミスト）：既知の成分がすべて同一の分類区分のため、
区分に該当しない
- 皮膚腐食性／皮膚刺激性：危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、
区分に該当しない
- 眼に対する重篤な損傷／刺激性：眼区分 2B+眼区分 2 の成分合計が濃度限界(10%)以上のため、
区分 2A に該当。
- 呼吸器感作性：危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、
区分に該当しない
- 皮膚感作性：区分 1 の既知成分が 1%以上のため区分 1 に該当
- 生殖細胞変異原性：危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、
区分に該当しない
- 発がん性：区分 1B の既知成分が 0.1%以上のため区分 1B に該当
- 生殖毒性：区分 1B の既知成分が 0.3%以上のため区分 1B に該当
- 特定標的臓器毒性（単回暴露）：危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上
含有しないため、区分に該当しない
- 特定標的臓器毒性（反復暴露）：危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上
含有しないため、区分に該当しない
- 誤えん有害性：動粘性率が不明のため、分類できない
- ※各成分の危険有害性情報をもとに判定したデータになります。

成分データ（カーボンブラック）

- 急性毒性：区分外
経口 ラット LD50 15400mg/kg RTECS (2004)
- 発がん性：区分 2（発がんのおそれの疑い）
IARC 分類 2 B、及び日本産業衛生学会第 2 群 B に基づく
- 特定標的臓器／全身毒性
反復暴露
肺：区分 1（長期または反復暴露による臓器の障害）
ヒトのじん肺症（DFGOTvol.18(2002)）、及びラット吸入試験で肺への影響（上皮の過形成、化生、肺胞細胞の増殖等）（DFGOTvol.18(2002)）に基づく
- ※カーボンブラックは湿化品のため、危険有害性はほとんどないと考えますが、データが不足しているため、粉体での危険性に準じた扱いで評価しています。

1 2. 環境影響情報

- 生態毒性
- 魚毒性：データなし
- その他：データなし
- 残留性／分解性：データなし
- 生体蓄積性：データなし
- 土壤中の移動性：データなし
- オゾン層への有害性：データなし

1 3. 廃棄上の注意

- ・産業廃棄物（廃油と廃プラスチック類の混合物）として許可を受けた専門業者に処分を委託する。
- ・空容器を廃棄するときは、内容物を完全に除去しておく。

1 4. 輸送上の注意

国際規制

国連分類 : なし
国連番号 : なし
品名 : なし
容器等級 : なし
海洋汚染物質 : なし

国内規制

陸上輸送 : 消防法, 労働安全衛生法等に定められている運送方法に従う。
海上輸送 : 船舶安全法に定められている運送方法に従う。
航空輸送 : 航空法に定められている運送方法に従う。
特別安全対策 : 特になし

輸送の特定の安全対策及び条件 :

取扱い及び保管上の注意の項の記載に従うこと。

容器漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実に
行なうこと。

火気厳禁。

応急措置指針番号 : なし

1 5. 適用法令

消防法 : 指定可燃物 (可燃性固体類) (3000kg)

労働安全衛生法 : 第57条の2第1項 (通知対象物) 名称を通知すべき物質 (カーボンブラック)

毒物劇物取締法 : 該当せず

1 6. その他の情報

ホルムアルデヒド放散量区分 : (日本シーリング材工業会) ホルムアルデヒド汚染対策のための自
主管理規定 JSIA-027031 F☆☆☆☆

主な引用文献 :

- ・ ウレタン原料工業会 : ポリウレタン原料についてー安全取り扱いの手引きー
- ・ ウレタン原料工業会 : ポリオール (PPG) の輸送管理指針
- ・ ウレタン原料工業会 : ポリウレタン原料工業の概要
- ・ 石油化学工業会 : セーフティデータシート (No.49) ホリプロレングリコール
- ・ GHS 対応ガイドライン ラベル及び表示・安全データシート作成指針
(2019年6月 一般社団法人 日本化学工業協会)
- ・ GHS 対応ー化管法・安衛法におけるラベル表示・SDS 提供制度
(2020年10月 経済産業省、厚生労働省)
- ・ 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 (NITE) ホームページ
- ・ 混合物分類判定システム (経済産業省)
- ・ 職場の安全サイト (厚生労働省)

本データシートは、日本工業規格 Z 7253:2019 「GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達
方法ーラベル、作業場内の表示及び安全データシート (SDS) 」 (以下「JIS」という) に準じて作
成されており、用語の定義は、JISに従っています。

本データシートは製品の安全な取扱いを確保するための「参考情報」として、作成時点で弊社の
有する情報を取扱事業者提供するものです。

取扱事業者は自らの責任において各々の実体に応じた適切な処置を講ずることが必要です。

記載内容は現時点で入手できる資料/情報/データに基づいて作成しております。しかし含有量、物理化学的性質、危険有害性等についてはいかなる保障をなすものではありません。

関連する新しい情報を入手した場合、本 SDS は改訂されることがあります。また注意事項は通常の取扱いを対象にしたもので、特別な取扱いをする場合には用途/用法に適した安全対策を実施の上ご利用下さい。